

卷之三十一

本補金は出資(次文手續)の詳情
並びに其の開示する事項を記す。

船を待つてアレトするなど艶麗が分かり、他の
どの大切さなど全部を噛みになつた。艶麗でこ
たな。うした艶麗を克服して
少佐は横筋の川上屋
は智恵(横筋中太郎)博士
はアドウムが乗
橋川原体ではチムを
引つけるためによつて
いた。

〔總編輯（副編輯）姓名〕 〔總發行處所〕

二二二日は姫箭部
皆房のケアについて本
なうがめる。
明達師らが再興院の
性について考る第12回
選市川の母子

[View Details](#) | [Edit](#) | [Delete](#)

新編 本居宣長全集

アマダユニア園業の第1ゴルフナンバー
アンの懸念を争う第48回山陽本山杯及び
戦(県アマチャニア出監選出選、山陽
新潟県主催)が21日開幕。トータ
メントの4回戦までを除く山陽選手
の内山田義和(山陽)は、会場で行い、ベス
ト8が決まりた。

介護実践の 本筋を学ぶ

川崎天祐人生小史

おうとうの間で、おまかせです。
おまかせです。

川崎医療福祉大学創立記念報告会を開いた。今年は高齢者を目的に、福岡市に進学を希望した学生が、松島は二十二日、講演などを介して、高齢者に対する理解を深めました。

易本國方戰力、開拓

アマダニイケ開業の第1ブンバー
アンの座を争う第48回山陽本線山
陽戦(県アマチユア開業監選2、山陽
新幹線主催)が21日開幕。トータ
メントの4回戦までを山陽山陽主
催の高島館「金鶴軒」で行い、バス
ト8が決まった。

易本國方勢力、開拓

アマダニイケ開業の第1ブンバー
アンの座を争う第48回山陽本線山
陽戦(県アマチユア開業監選2、山陽
新幹線主催)が21日開幕。トータ
メントの4回戦までを山陽山陽主
催の高島館「金鶴軒」で行い、バス
ト8が決まった。

高梁字園 11月16日

高梁字園

倉敷中央言

高梁字園の開設式典が11月16日、倉敷市立高梁字園にて開催されました。この式典は、高梁字園の新設と、高梁字園の運営を目的としたもので、多くの来賓や地元住民が出席しました。式典では、高梁字園の開設の意義や、今後の運営方針が発表され、また、高梁字園の運営に貢献した方々へ感謝の意を表す祝辞が述べられました。また、高梁字園の開設により、地域社会の活性化や、地域の発展に寄与する期待が寄せられています。

高梁字園の開設式典が11月16日、倉敷市立高梁字園にて開催されました。

高梁字園の開設式典が11月16日、倉敷市立高梁字園にて開催されました。

高梁字園の開設式典が11月16日、倉敷市立高梁字園にて開催されました。

高梁字園の開設式典が11月16日、倉敷市立高梁字園にて開催されました。

高梁字園の開設式典が11月16日、倉敷市立高梁字園にて開催されました。

小陽新聞

11/3(水)

教育充実へ連携

倉敷中央高と高梁学園

講師派遣、生徒受け入れ

倉敷中央高（倉敷市西
富井）と吉備国際大や
順正短大を運営する高梁
学園（いずれも高梁市伊
賀町）の連携協力協定調
印式が二日、同市奥方田
町の学園国際交流会館で
行われた。両校は看護、
福祉など共通分野が多く、
講師の派遣や講義への
生徒受け入れで、相互に
の意気込みで切磋した。

倉敷中央高（倉敷市西
富井）と吉備国際大や
順正短大を運営する高梁
学園（いずれも高梁市伊
賀町）の連携協力協定調
印式が二日、同市奥方田
町の学園国際交流会館で
行われた。両校は看護、
福祉など共通分野が多く、
講師の派遣や講義への
生徒受け入れで、相互に
の意気込みで切磋した。



協定調印式に出席した中根校長（左）と加計理事長

す」、中根

公郎校長は

少子化で

高校も魅力

つくりが急

務。優れた

人材育成を

目指した

い」とあい

さつ。理事

長と校長が

協定書に署

名押印し、

取り交わし

た。

具体的な連携内容は、

双方で設置の高大連携推

進委員会で決める。

調印後、生徒は医療・

看護・福祉・幼児教育の

三コースに分かれ、それ

ぞれ吉備国際大の教官ら

の案内で、学内を見学し

講義内容の説明を受け

た。

毎日新聞

11/3(水)

高梁学園と倉敷中央高

連携協力で協定書

魅力、実力アップを

学校法人高梁学園（加
計美也子理事長）と県立
倉敷中央高校（中根公郎
校長）は2日、高梁市伊
賀町、同学園国際交流会
館で連携協力を目的とする
協定書に調印した。

同学園には吉備国際
大、順正短大、順正高等

倉敷中央高二年生約百五十
人が出席。加計美也子同
学園理事長が「連携が、
実りある友情にあふれた
ものになるよう切磋しま

た。

調印式には関係者や倉
敷中央高二年生約百五十
人が出席。加計美也子同
学園理事長が「連携が、
実りある友情にあふれた
ものになるよう切磋しま

た。

一層の専門教育の充実が
期待されている。看護

は県内で初めて。教員
の相互派遣や施設設備の
提供、教育実習生の受
け入れなどをを行う予定。
・福祉分野の高大連携
は、連携協力によって、
高校の魅力アップ
・実力アップのためには
、英知を結集したい」と述べた。
【山本麻美子】